農業簿記教本

京都大学助教授
農学博士 阿部亮耳
京都大学教授
農学博士 頼平
共著

明文書房

農業簿記教本

京都大学助教授
農学博士　阿部亮耳
京都大学教授
農学博士　頼　平
共著

明文書房

著者略歴

阿部亮耳（あべりょうじ）

1926年　京都市に生まれる
1950年　京都大学農学部農林経済学科卒業
現　在　京都大学農学部助教授，農学博士
著　書　『農業経営複式簿記』『農業財務会計論』他多数

頼　平（よりたいら）

1928年　宮崎市に生まれる
1951年　京都大学農学部農林経済学科卒業
現　在　京都大学農学部教授，農学博士
著　書　『農家経済経営論』『改稿・食料経済概論』他多数

検印廃止

農業簿記教本　　**定価　950円**

昭和52年2月25日　初　版第1刷発行
昭和54年3月20日　第3版第1刷発行

©著作者　阿部亮耳
　　頼　平

発行者　東京都千代田区三崎町2—12—2　深田　薫

印刷所　東京都文京区大塚3—7—4　浅井印刷所

製本所　東京都文京区大塚3—36—5　丸一製本工業株式会社

発行所　明文書房
東京都千代田区三崎町2—12—2
振替口座東京4—84288
電話 (03) 262—4715，6250
郵便番号 101

7061-611252-8315

Printed in Japan

別冊練習帳（250円）を用意しておりますのでお申込み下さい

動をつかまえようとしていることである。単記式複計算組織の農家経済簿に固有な概念と術語を用いて，複式簿記を講述することもできる。しかし本書ではとくにつぎの点を考慮したのである。まず農業高校卒業生の大部分が複式商工業簿記を使う職場に就職すること，つぎに企業的大規模経営になるほど，税務署，金融機関，農協に対する簿記の報告機能が重視されるようになるが，これら諸機関の職員が複式商工業簿記の実務経験を尊重するために，農家に複式簿記の記帳を要望することである。

第3の特色は，簿記の経営管理機能を重視して，複式農業簿記に関する固有の領域（第1-13章）の後に，原価計算と経営分析の章をつけ加えたことである。

第4に，農業経営における複式簿記の原理を具体的に理解してもらうために，まず耕耘請負業に関する簡単な事例をあげている。ついで記帳，決算，分析の具体的な手順や慣習に熟達してもらうために，個別養鶏経営の記入例題を用いている。なお，この事例の技術的数値は，『採卵鶏5,000羽飼育技術体系―（東海近畿地域における）―農林水産技術会議事務局，昭和42年』を引用したものである。記して謝意を表したい。また巻末に花き作経営の練習問題を設けた。初学者は，鉛筆と用紙を用意して，根気強くこれらの例題や練習問題を解き，簿記をつけ，利用することになれていただきたい。

最後に，本書の発刊について種々御厚意をいただいた明文書房社長深田薫氏ならびに大城幸男氏に厚くお礼を申しあげたい。

昭和52年2月

阿部亮耳　頼　平

農業経営複式簿記

京都大学助教授　農博　阿部　亮耳著

A 5　P 220　1,400 円　〒200

農業経営に複式簿記を適用する場合に，外部取引きばかりでなく，内部取引きも勘定組織の中に組入れて工的な農業簿記とするという趨勢が強まりつつある。本書の著者は，完全な工的複式農業簿記が，ただちに実際のすべての農業経営に適している訳ではないが，条件さえととのえば，このように行なわれるであろうという期待をもって本書を編さんされている。そしてその最も典型的なものとして，養鶏を行なう共同経営を一貫した例題としてあげ，酪農の共同経営の練習問題も付した。

入門複式農業簿記

静岡大学名誉教授　農博　田中　義英著

A 5　P 224　950 円　〒200

昭和36年初版発行以来版を重ねること20回，多くの農業高校，農業大学で教材として使用された本書は，今日でもなお複式農業簿記入門の書として親しまれているものである。

本書の学習によって商業簿記3級検定に合格した農業高校生も多数いることで判るとおり，卒業後の方向によっては本書の真剣な学習が強く望まれるところである。

複式農業簿記演習

磐田農業高校　校長　藤田　良明著

A 5　P 208　950 円　〒160

本書は複式農業簿記の実力を養成するために編まれたものである。簿記の教材が，頁数の関係からどうしても概論的になりやすいので，本書は最初から，例題を与え，演習問題を与えて，その解説解答の中で簿記の仕組みや，勘定科目，決算の手続き，試算表や精算表，棚卸表などの作成方法を教えるような方法をとっている。本書の活用によって農業高校の生徒が商業簿記2級検定試験に合格した例もある。高校，短大生必須の教材といえる。

明文書房　東京都千代田区三崎町2-12-2
振替口座東京 4—84288

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　次

第1章　農業と複式簿記……1
1　農業経営と複式簿記……1
2　農業簿記の種類……3

第2章　複式簿記の原理……7
1　資産・負債・資本……7
2　損失と利益……13

第3章　勘定科目と元帳……17
1　勘定科目……17
2　勘定口座と元帳……20
3　借方と貸方……22
4　元帳の借方と貸方の記入のしかた……23

第4章　取引とその分類……25
1　簿記上の取引……25
2　取引の分類……26
3　取引と貸借記入の原則……28

第5章　仕訳と転記……31
1　仕訳の意義……31
2　仕訳帳の形式と記入……31
3　例題記入……33

4 転　　記……46

第6章 試　算　表……61

1 合計試算表……61

2 残高試算表……62

3 試算表の誤謬発見の役割と時期……65

4 精　算　表……67

第7章 決算整理……69

1 決算の意義……69

2 利益および損失の繰延と見越……70

3 棚卸資産の評価と整理……74

4 減価償却……76

5 貸倒引当金の計上……77

第8章 帳簿決算……89

1 振替記入……89

2 帳簿決算に必要な勘定の設定と手続き……90

3 元帳と仕訳帳の締切り……93

4 開始記入……94

第9章 農業経営における勘定科目……107

1 資産勘定……107

2 負債勘定……114

3 資本勘定……117

4 損失勘定……119
5 利益勘定……125

第10章 棚卸資産と記帳方法……127
1 棚卸資産の意義……127
2 棚卸資産の記帳……129

第11章 減価償却……133
1 減価償却の意義……133
2 減価償却の方法……134
3 固定資産台帳の記入……136
4 減価償却の記帳方法……137
5 資本的支出と収益的支出……138

第12章 財務諸表……139
1 財務諸表……139
2 損益計算書……140
3 貸借対照表……143
4 財産目録……146

第13章 帳簿組織……149
1 帳簿……149
2 伝票の利用……149
3 仕訳元帳……153

第14章　農産物の原価計算 …… 155
1　原価計算の意義 …… 155
2　原価計算簿記の仕組み …… 156
3　原価計算の手続き …… 161

第15章　経営分析 …… 173
1　経営分析の意義 …… 173
2　財務諸表による分析 …… 175
3　損益分岐点分析 …… 181
4　家族労作経営としての農業経営分析 …… 186
練習問題 …… 191
付録 …… 195
索引 …… 219

第1章　農業と複式簿記

§1　農業経営と複式簿記

「簿記は経営の羅針盤である」とか，「簿記をつけていない経営は，針のない時計のようなものだ」とかいろいろの表現はあるが，簿記をつけることによって，経営にとって欠くことのできない情報が得られることはまちがいない。地図を見て地球の表面の状態を知り，時刻表を見て列車が今どこを運行しているか知ることができるように，経営がどのような状態にあるかを把握するためのもっとも効果的な方法として簿記が記帳される。

複式簿記は14世紀にイタリアで発祥したといわれているが，それから数百年間，人間が経済活動を行なう上において漸次必要なものとして改良を加えてきたものである。とくに商工業の分野では経済の発展につれて必要不可欠なものとなってきた。18世紀にドイツの詩人ゲーテは「複式簿記は人類の創造した最高のもののひとつである」といっている。

農業は商工業などよりは，はるかに長い歴史を辿ってきているが，農業が家族労作経営という形で営まれてきたために，家の財産を守り必要な生活費を稼ぎだすという考え方はあっても，資本を出資して最大限に資本純収益をもうけようという考え方は，基本的には農業者になかったように思われる。わが国においても複式簿記は明治の初めに輸入されたが，農業にはほとんどとり入れられなかった。戦後経済の発展につれて農業にもようやく企業的な考え方がはっきりとあらわれてきたので，複式簿記を記帳しても何とか適合するような状態になったといえよう。とくに昭和35年以降，農業共同経営ないし農業法人が設立され，共同によって多額の資本を出資し，大規模生産の有利性を追求するようになって，初めて経営と家計とが分離され，しかも共同経営の構成員の出役労働に対しても労賃を支払うという経営計算の考え方

が実践されるようになった。このような共同経営には，複式簿記がすんなりと受入れられるようになり，とくに経営管理のために必要な情報を提供するという管理機能だけではなく，構成員や金融機関に対して，経営成績や財政状態を報告したり，税務対策上必要な資料を提供するとかいうように，簿記の対外的な財務的機能が重宝がられるようになったのである。共同経営と交渉する税務関係機関や金融機関などは単式簿記よりもむしろ，複式簿記になれているので，複式簿記による情報を信頼しがちである。また共同経営も大規模になると，複式簿記の記帳と決算に習熟し，経営管理や財務にある程度分業化した構成員をおくようになったので，これらの大規模共同経営には，複式簿記が普及するようになったのである。

ところでわれわれがさらに複式簿記を普及させようとする対象は，大規模な自立経営，あるいは企業的経営といわれている個別農家である。これらの農家では，農業経営と家計経済面とが別々の会計単位としてとり扱われている。家計経済面の運営は主婦にまかされており，彼女は家計簿を羅針盤として，家族員の誰もが満足するように家計費の配分を図っていくのである。

他方，農業経営は，経営主が計数的な思考にもとづいて構想力と決断力とを発揮する場であり，経営目標の持続的な最大化をめざして，経済合理的に管理される。このような農業経営では，経営耕地，建造物，機械器具，永年性植物，または家畜などへの投資額がかなり多額になり，さらに購入飼料費などにあてる運転資金も相当な額にのぼる。資金の調達と償還問題が重要になり，さらにこれらの飼料から土地に至るまでの生産資産の有効利用が経営管理上の重要な問題になっている。したがって，生産面の資産の増減変化とともに，負債および自己資本の増減変化を知ることが関心の的になり，自己資本の出資ということに実感がこもってくる。そうなると，自己資本純利益の持続的最大化を経営目標として設定することが明確に自覚されるようになる。自家労働についても，タダの労働として，少々労働能率の低い用途でも，完全燃焼をねらって酷使するという考え方を捨てるようになる。少なくとも農外被傭労賃を上回る労働報酬をあげるような経営内の利用機会へ投入

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

し，経営にとって雇用労働と同様に労賃という費用のかかる生産要素として自家労賃を認識するようになる。

複式簿記は，そのような発展段階にある農家の経営主にこそ喜んで迎え入れられる経営管理用の道具であり，またこの道具を使うことによって，経済合理的な会計思考力をますます研ぎすますという役割を果たすものである。

要するに，複式農業簿記は，上に述べたような企業的な個別農業経営や農業共同経営にとって最も役立つ情報提供の手段である。これらの経営主は複式簿記によって経営の経済的な情報を収集し，農業経営に出資された資本が，日々の経済生活のなかでどのように増減変化するかを把握し，この情報にもとづいて，経営目標をよりよく達成しうる経営のやり方を経営改善計画の形で具体化し，実践していかなければならない。

§2　農業簿記の種類

農業簿記はいろいろな見地から分類される。

1)　適用される経済体の性格による分類

a)生産経済簿記（営利経済簿記）

農業経営簿記（個人農業者，協業，農業会社等）

b)消費経済簿記（非営利経済簿記）

家計簿（農業簿記ではない）

c)a)とb)の両方を含むもの

農家簿記〔(農業＋農外)＋(家計)〕

a)の個人農業者の農業経営簿記は，農家の経済行為の中から農業経営だけをとり出して，企業と同様に考え簿記をつけるもので，本書では主としてこれを取扱う。農業を営む経済体としては，協業や農業法人がある。b)は家計の消費支出の明細を記入するもので農業簿記ではない。c)は農家経済全体を把握するため，農業経営，農外部門，家計消費のすべてにわたって記

帳を行なう簿記である。

2)　適用される対象による分類

農業では土地を利用する耕種生産から畜産や養蚕，さらに農産物の加工・販売までが対象となる。また林業や水産業まで広く範囲を考えると，きのこ栽培や鯉の養殖などを始め諸種のものが含まれる。簿記の対象としては農業者が営む農業のすべての範囲を対象として農業経営簿記を記帳するのが通常である。しかし，その中で特定の農産物の生産・販売のみを対象とした部門簿記も記帳される。

3)　利用される帳票の種類・型式による分類

a)帳簿式，b)伝票式，c)行列式

帳簿に記入を行なう点からいえば，a)の帳簿を用いるのが基本的であるが，b)の伝票は実務上広く使用される。c)は縦と横の線の入った将棋盤のような用紙を用いることに特徴がある。本書では主としてa)の方式にしたがって簿記の基本的な骨組みを説明する。

4)　利用する手段による分類

a)手記式　b)ＥＤＰ方式

a)の手記式は人間の手によって帳票に記録・計算・報告する通常の方法であり，本書ではこれを取扱う。b)は近年電子計算機の発達により，ＥＤＰ(Electronics Data Processing，電子情報処理)が用いられるようになった。原初の情報記録を人間がテープやカードに穿孔すると，後は電子計算機を用いることによって記録・計算・報告用紙の印刷が行なわれる。農業の関係分野でも農業協同組合で広くＥＤＰを使用しており，農業者の中でこれを利用する例もある。

5)　目的による分類

a)財務簿記　b)管理簿記

a)の財務簿記は記帳を行なう主体の経済行為の中で起こる財産・資本の増減変化を取引により把握して，法律や規則などにしたがって，その経済主体の利害関係者に対し，一定の期間の経営成績や一定の日時の財政状態を情

報として提供することを目的とする。これに対してb）の管理簿記は，その経済主体の内部の計算制度であり，農業経営の業績を管理しまたは将来の計画をたてるために，その経営者，管理者，従業者のために必要な情報を提供することを目的とする。

財務簿記については，利害関係者として第1に所得税・法人税の関係として税務署があり，税務の申告目的のために記帳されるばあいが多い。これをとくに税務簿記という。第2に債権者たとえば農協や銀行などの金融機関は融資の前にも後にも記帳の結果を情報として要求する。第3に，国家地方公共団体も補助金などを供与する条件として財政状態や経営成績などの情報の提出を要請する。第4に，農業共同経営では出資者である構成員に対して当然記帳の結果をすべて報告しなければならない。法人のばあいには法律によって諸種の規定がある。個人の農業者のばあいには，父子の相続関係を明らかにするものとして財務簿記が必要である。

財務簿記はこのように外部に対して客観性を重んじ，取引に関する証拠書類が保存されなければならない。農業共同経営や農業法人のばあいには，この成果にしたがって配分が行なわれることになるし，税務署は課税額を決定することになる。また債権者は融資の額を決定したり，その幅を増減することになる。

管理簿記については，農業経営を行なう農業者自身だけでなく，ある程度管理をまかされた人や従事者に対しても，帳簿記録を通じて業績の管理を行ない，原価をきりつめ収益の増大をはかることを目的とする。管理簿記は農業経営に従事する人数の多少によってその効果に大いに影響がある。

6）　記録方法と内容による分類

a）単式簿記　b）複式簿記

a）単式簿記（single entry book-keeping）は一般に複式簿記以外の不完全な簿記をいう。大福帳や現金出納帳などのように金銭の収支や貸借に限られていたり，財産計算だけや損益計算だけであったりする。また複式簿記のような自己検証作用がない。

b)の複式簿記 (double entry book-keeping) は，ある1つの農業経営について財産＝資本という等式にしたがって，財産という具体的な側面と資本という抽象的な側面の両方から，その増減変化，プラス・マイナスを計算する方式であり，財産計算と損益計算の両計算を行ない，自己検証作用がある。通常完全な簿記といえば複式簿記のことをいう。本書は全体を通じて複式簿記を研究するものである。

第2章　複式簿記の原理

§1　資産・負債・資本

資産とは一般に企業などが所有する財貨と債権をいう。所有するということは，その物を自由に使用したり，他人に貸付けたり，あるいは処分をすることができることである。農業経営における財貨としては，肥料，飼料，農機具，家畜，農舎，農地などがあるが，すべて農業経営を営む農業者が所有しているものに限られ，他人から借入れた財貨は資産に属さない。債権は預貯金や貸付金などのごとく，他人に対して金銭を請求する権利をいうのがふつうである。銀行に現金を預けてあれば預金として後日これを引出す権利があり，得意先に物品などを掛売りすれば売掛金として後日代金を請求することになる。

財貨や債権はすべて金銭でもって表示することができるものに限られる。非常に有能な経営者や雇用者がいても，人間は金銭で評価できないのでその経営の資産ではない。

負債は債権とは反対に法律上債務とよばれ，通常は金銭による債務であって，後日に金銭を返還しなければならない義務をいう。物を購入すれば後日その代価を金銭で支払うことになりこれを未払金という。金銭を借入れて後日これを返済するばあいが借入金であり，未払金，借入金などが負債である。負債についても金銭で表示できないばあいは簿記上の負債ではない。

簿記の上では資産と負債とを合わせて**財産**という。すなわち資産を**積極財産**（プラスの財産）とし，負債を**消極財産**（マイナスの財産）と考えて，資産から負債を差引いた額を**純財産**とよぶ。純財産はまた簿記上**資本**とよばれる。資産と負債は上に述べたように具体的な財貨や債権と債務として金銭で表示されたものであるが，資本はその差額で抽象的な価値を示し，資本は所

有主に帰属する価値額である。通常の用語で資産があるというときは簿記の上では純財産があることを意味する。

以上の資産・負債・資本の関係を等式で示すとつぎのとおりであり，これを**資本等式**という。

資産－負債＝資本（＝純財産）

財産　　＝資本

この資本等式によって，ある1つの農業経営の経済行為を，財産と資本との2つの面から記録，計算，表示してゆくのが複式簿記である。

つぎに耕作請負業（サービス業）を行なう山田太郎の簡単な例を用いて説明してみよう。

1）　山田太郎は現金100万円を元入れし，川野二郎より現金20万円を借入れて，耕作請負業を始めた。

元入れとは資本（元手）を経営に出資することをいう。このばあい，昭和××年×月×日において，資産・負債・資本の状態はつぎのとおりとなる。

（資産）	現　金	1,200,000円
（負債）	借入金	200,000円
（資本）	資本金	1,000,000円

資産－負債＝資本

1,200,000円－200,000円＝1,000,000円

山田太郎（耕作請負業）は，現金120万円の資産を所有し，川野二郎からの借入金が20万円ある。上式のとおりその差額100万円が純財産であり，山田太郎の簿記上の資本は昭和××年×月×日において100万円である。

貸借対照表（balance sheet；B/S）は，ある1時点における経営の財産状態を示すもので，資産・負債・資本の内容が示されたものである。この表（勘定式）は資産－負債＝資本という資本等式の左側にある負債を右側に移して

資産＝負債＋資本

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com